

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県  
和歌山県農業士会連絡協議会

# 和歌山の 農業士

2020  
3  
March

地域農業をリードする熱き農業者達

第14号





# はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

## <巻頭言>

地域と共に新規就農者育成と定着に向けて

(和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 中浴 泉) …………… 1

施設園芸を支える技術開発

(和歌山県農業試験場暖地園芸センター 所長 藤岡 唯志) …… 2

## <私の農業>

### 農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

魅力ある農業の実践 (和歌山市 指導農業士 河嵩 保儀) …………… 3

高品質農産物で所得安定 (紀の川市 地域農業士 田口 実) …………… 5

果樹・切り花との複合経営から柿専作経営へ ～自分の地域に合った果樹栽培をめざして～

(橋本市 指導農業士 井上 公雄) …………… 7

みかんの「味」にこだわって ～情熱を未来につなぐ～

(有田市 指導農業士 鳴川 耕平) …………… 9

日本一の梅産地をまもっていききたい (みなべ町 指導農業士 松川 哲朗) …………… 11

100点満点の「笑み」をいただける農産物販売をしていきたい

(田辺市 指導農業士 木村 則夫) …………… 13

## <農業に懸ける想い>

### 若い農業者が、農業への熱い思いや取り組みを紹介

農業を通じた交流 (海南市 和海地方4Hクラブ連絡協議会 志賀 友哉) … 15

果樹農業の可能性 (紀の川市 青年農業士 児玉 悠詩) …………… 16

水稻・野菜・柿との複合経営 ～美味しい農産物生産をめざして～

(橋本市 地域農業士 碓 和也) …………… 17

効率的な美味しいみかん作り (有田川町 青年農業士 井口 拓哉) …………… 18

次世代へと繋がる農業を目指す！ (御坊市 青年農業士 齋藤 喜也) …………… 19

さらなる高品質安定生産を目指して！ (田辺市 青年農業士 天野 佳友) …………… 20

## <役立つ情報、試験研究レポート>

「和歌山県オリジナルカンキツ品種の紹介」～中晩柑「はるき」、晩生ミカン「植美」～

(果樹試験場 栽培部 主査研究員 田嶋 皓) …………… 21

実エンドウ新品種「みなべ短節間1号」の特性

(農業試験場暖地園芸センター 育種部 主査研究員 田中 寿弥) … 23

サカキを加害する新種ヨコバイの生態と防除

(林業試験場 特用林産部 主任研究員 田中 作治) …………… 25



# 巻頭言

## 地域と共に新規就農者育成と 定着に向けて

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 中 浴 泉



令和元年度から、副会長に就任しました紀の川市桃山町の中浴です。岡田会長のもと、皆様のご協力を得て和歌山県農業の発展に向けた農業士会運営に努めて参りますので、よろしくお願いたします。

さて、私は紀の川市において桃栽培と農産物（桃等）加工の6次産業化に取り組んでいます。

地域では、高齢化や担い手不足等により年々生産量は減少し、産地の維持が容易では無い状況が始まっております。やはり、若い担い手が増えなければ活気も元気も出ません。4年前からJA紀の里における新規就農者育成窓口であるトレーニングファームのサポート農家として、就農者の育成に取り組んでいます。2年前には3名、今年も1名を就農に繋げることが出来ましたが、色々と課題が残っており、就農者の経営は順風満帆とは決して言えず、まだまだ目が離せない状況です。

就農に関する問題点を新規就農者に聞き取りましたので、参考までに記述します。①栽培地は借りられるが作業場の確保が困難。②気候変動（温暖化）や台風被害等で収入が安定しない。③農繁期における労働力の確保。④農閑期の仕事の確保。等々新規就農者目線で問題解決する事がたくさんあります。やはり農業経営を行うとなれば総合的な能力等が必要となります。

しかし、新規就農者は十分な知識や設備が足りない中で就農する方が大半を占めており、JA紀の里、

経営力のある地域農家、法人も含め、独り立ち出来るまで、上記の問題を解決するために根気よく支援を続けて行く必要が有ります。

課題の一つである農閑期の仕事の確保については、桃加工の他にも幅広く農産物の6次産業化の取組を強化していくことで、農閑期の仕事を提供できるように努力するとともに、他の6次産業化の取組団体とも情報を共有することにより、少しでも就農者のお役に立てればと考えています。

また、本県農業発展のためには、県・市をはじめ関係機関のご協力を頂き、競争力のある農地の整備、他府県からの就農者受け入れに必要な住居と作業場の一体型受入れ体制（農村コミュニティ）の確立が必要と考えます。地域での新規就農者育成、定着と言う課題は子育てと一緒に根気よく取り組むことしかならないと思います。

最後に、諸先輩方からのバトンを受け継ぎ、私たち生産者と関係機関が連携を密にし、「自立した地域農業の発展！明るく、豊かな気持ちで、朗らかに」をモットーに取り組んで参りますので、ご協力頂きますようお願いいたします。

# 巻頭言

## 施設園芸を支える技術開発

和歌山県農業試験場暖地園芸センター

所長 藤岡 唯志



農業士の皆様には、常日頃、地域のリーダーとしてご活躍され、地域農業の振興にご尽力されていることに心から敬意を表します。また、暖地園芸センターの試験研究に格別なるご協力を頂いておりますことに厚く御礼申し上げます。

当センターは、日高、西牟婁地域等の花き野菜の生産振興を図るため、昭和62年に御坊市塩屋町に開設され、特産品について新品種の育成や栽培技術の開発に取り組み、産地と密接に連携しながら試験研究を進めて参りました。

現在、日本一の生産量を誇るスターチスにつきましては、県オリジナル品種として、花色が異なる10品種を育成し、「紀州ファイン」シリーズとして産地に普及しております。また、これらの品種の種苗生産を組織培養業者に許諾することにより安価な幼苗を供給できるようになり、スターチス農家の経営を圧迫する種苗費を低減しております。

野菜では、日高地域の主力品目であるエンドウについて、早生で大莢の実エンドウ「紀の輝」、小包発生が少ないキヌサヤエンドウ「紀州さや美人」を育成しました。

また、一昨年は、ハウス栽培でも草丈が低く、作業性の良い実エンドウ「みなべ短節間1号」の育成を支援しました。

その他、花き類の電照や低温処理による開花調節技術の開発や実エンドウの「空気莢」発生要因の解

明、エンドウとイチゴの優良原原種苗の供給等により産地の維持発展に貢献して参りました。

最近、「スマート農業」が注目されていますが、近年急速に進歩してきたロボット技術や情報通信技術（ICT）、AIを活用して、省力化や軽労化、高品質生産に取り組む新たな農業のことです。

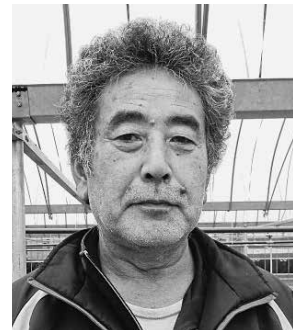
施設園芸においては、温室の温度や湿度、CO<sub>2</sub>濃度など複数の環境要因をモニタリングし、最適に保つため、コンピューターで各制御機器を連動させる「スマート施設園芸」が期待されています。当センターでは、本年度、内閣府の地方創生拠点整備交付金により、炭酸ガス発生機やヒートポンプ、細霧冷房、複合環境制御装置等を装備した研究温室を5棟建築します。この新しい温室を利用して、ミニトマトやトルコギキョウなどについて、高品質多収省力生産を実現する複合環境制御技術の開発を進める計画です。

暖地園芸センターはこれからも園芸産地の中にある試験研究機関として、温暖な気候を生かした花き野菜の収益性の高い施設園芸に寄与する技術開発、品種育成に取り組む所存でございます。農業士の皆様には、今後とも一層のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

## 魅力ある農業の実践

和歌山市 指導農業士

河 鳶 保 儀



### 1. はじめに

私は、小さい頃から漠然と家の農業を継ぐものだと思っていましたので、昭和54年に東京の大学を卒業後すぐに就農しました。

### 2. 農業経営の特徴

就農当初は、両親がハウスでショウガ、ダイコン、トマト、ホウレンソウ、露地でニンジンと水稲50aを栽培していました。当時、野菜の価格が低迷していたため、ガラス温室を建てて地域で初めてトマトの水耕栽培にチャレンジし20年ほど栽培したこともありましたが、ショウガの価格が安定していたので水耕トマトは辞めて、現在は、ショウガを経営の柱にホウレンソウ、コマツナ、シュンギクの周年栽培を行っています。

ショウガを栽培するのに種ショウガを県外から購入していますが、気象災害など種ショウガ産地の状況により優良な種ショウガの安定確保が難しくなることが懸念されています。種ショウガの安定確保は、経営に直接つながりますので、ある程度自分でも確保する必要があると考え、昨年からは種ショウガの栽培を始めました。作ってみると良いものを作ることは難しいところもありますが、息子とも少しずつ増やしていこうと話しています。

息子が就農して9年目になります。息子の就農をきっかけに、規模拡大と農業用機械の導入による作

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
ショウガ	71a
コマツナ、ホウレンソウ等	163a
○労働力	
家族労力	3人
臨時雇用	6人



シュンギク栽培

業の効率化に取り組み始めました。規模拡大は、近くで農地を取得してしばらく露地でホウレンソウとコマツナを栽培していましたが、そこにハウスを建て今年からショウガを栽培することにしています。

また、作業の効率化では、(私が前から欲しかったのですが・・・)フォークリフト、パワーショベル、運搬車などを導入して、できるだけ力仕事をしないようにするとか、施設に自動散水装置を設置するな



ど、作業全般を効率的、省力的に行い、できた時間を作物管理に手をかけて良いものを作るように心がけています。

このように、経営規模の拡大と作業の効率化、生産物の品質向上により、生産コストの削減と市場での有利販売につなげたいと考えています。



パワーショベルと運搬車

### 3. 今後の経営方針

息子が就農してから家族3人とパートさんで野菜作りを続けていますが、経営規模はできれば少しずつでも増やしていきたいです。

ショウガをメインに軟弱野菜の周年栽培のスタイルは現在のままで、特にショウガは面積を少しずつでも増やすのと栽培・防除技術を高めて秀品率の向上に努めたいと思っています。併せて種ショウガの自給率も上げていきたいです。

ただ、面積は増やしたいのですが、最近パートさんの確保が難しくなっています。近隣で募集していますが、こちらが希望する条件とのマッチングが難しくなっていますので、その辺のところ課題かなと思っています。

### 4. おわりに

私が所属する中洲出荷組合は、農家24～25軒の集まりで、安定した経営ができていることからほとんどの農家に後継者がおり、年齢層は20代～70代と活気ある組合となっています。組合員同士の交流は盛んで、勉強会や2年に一度夫婦参加の旅行をするなど、ほぼ年中忙しいのですが、束の間のオフシーズンには目一杯楽しんでいます。

私は高収入で魅力のある農業を目指しています。今は昔と違い、職業選択が多様化しているため、高収入で魅力のある仕事でないと後継者は育たないと思います。担い手の育成には、現役で農業を行っている私たち世代が魅力のある農業を実践し、息子や地域の若者に見せることが必要であると思います。

当地域は都市化が進み、農地と住宅が隣接していますので、早朝のエンジン音など気を使うこともありますが、地域住民の方々とうまくお付き合いをしながら、この地で野菜作りを続けていきたいと思っています。



ショウガハウス

# 私の農業

## 高品質農産物で所得安定

紀の川市 地域農業士

田 口 実



### 1. はじめに

私は、農林水産省野菜・茶業試験場（現 野菜・茶業研究所）で2年間の研修を終え平成12年に就農しました。

我が家の農業経営は、就農する以前まではバラ16a、柿20a、桃20aの栽培を行っていましたが、就農と同時にJA紀の里スプレーマム部会に入会すると共に、14aのハウスを新設し、スプレーマムの栽培を開始しました。

また、県内約60名の生産者で組織している、和歌山県スプレーマム研究会の活動の中で、栽培研修や規格の統一を行うことにより、関西の市場を中心に県下一元販売をしています。

現在の栽培面積は、スプレーマム30aと柿60aの複合経営をしています。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
スプレーマム	30a
柿（刀根早生）	20a
（平核無）	40a
※全量樹上脱渋（紀の川柿）	
○労働力	
家族	4人
常時雇用	1人
兼雇用	5人



スプレーマムの栽培状況



こだわりのスプレーマム

## 2. 農業経営の特徴

スプレーマムは、電照や遮光カーテン装置と暖房機を設置したハウスがあれば年3.5作栽培することができ、周年出荷できることに魅力を感じ栽培を始めました。また、菊類は年中安定した需要が見込め、特に盆や彼岸の仏日には欠かせない商材です。私は、年間出荷本数35万本を目標に秀品率の高い品種を選定し生産を行っています。しかし、近年の生産資材や燃料の高騰による経費の増大や産地間競争が問題となっていることから、積極的に省エネルギー栽培技術や肥培管理等の勉強会に参加したり、市場訪問を行うことにより高品質かつ需要に合う品種選定を行っています。

また、柿の栽培では刀根20a、平核無40aを全量固形アルコールで樹上脱渋し「紀の川柿」で出荷販売しています。

紀の川柿は、樹上で完熟させてから収穫するので大きくて糖度も高く、食感や棚持ちが良いので高級ブランド柿として販売されています。

我が家では、栽培当初から脚立レスで作業効率が良く、低樹形の2本主枝一文字整枝に仕立てることにより、脱渋作業や収穫時の負担を軽減しています。2本主枝では枝の重なりがないため、樹全体に日が均一に当たり、安定した品質の柿が栽培できると考えています。



低樹高2本主枝一文字整枝

また、摘蕾・摘果を確実に行うことにより、大玉果の生産を目指しています。販売先については、JAへの出荷をメインに行っていますが、ホームページや直売所での販売、バイヤーとの取引等販路の拡大を目指しています。

この2品目に絞った経営は、細かなところまで目の行き届いた管理と品質に拘った生産ができ、高単価で販売できるので所得を安定させる狙いがあります。

## 3. 今後の経営方針

傾斜地での栽培は、摘蕾や脱渋作業時の臨時雇用を確保するのが難しく敬遠されがちであることや、防除や収穫時は身体への負担が大きいため、順次、平坦地への栽培に切り変えることにより、栽培面積を1haまで増やしたいと思っています。



紀の川柿

## 4. おわりに

近年、若い世代が農業に興味を持ち就農される方が多いと思います。私は、農業士として地域のリーダーとなれるよう日々頑張りたいと思います。

# 私の農業

## 果樹・切り花との複合経営から 柿専作経営へ

～ 自分の地域に合った果樹栽培をめざして～

橋本市 指導農業士

井上 公雄



### 1. はじめに

私は、昭和52年3月に和農大（現 農林大学校）を卒業と同時に就農しました。当時、営農の主体は父母で、柿100a、水稻40aを栽培していました。

平成5年頃、水田に12aの花の施設を建設し、トルコギキョウの切り花栽培をほぼ同時期に地域の仲間4人でそれぞれに開始しましたが、平成10年の台風7号で被災したため、4連棟のうち被害の大きい1棟を切り離して再建し、ストック、アスターなどの切り花栽培を続けてきました。

その後、燃油等の高騰や妻の体調不良により二十数年続けてきた花栽培から撤退。一方では親戚や近所の柿園を借り受け、徐々に経営規模を拡大してきました。

### 2. 農業経営の特徴

農業で生計を立てていくには先ずその地域に合った作物（いわゆる適地適作）が大事であると思っており、私の場合は特産の柿にこだわって栽培し、現在では単一品目の経営となっています。現在、柿面積は、極早生柿20a、刀根早生150a、平核無50a、富有100aの計320aであり、このうち借地は6割を占めています。

消費者に喜ばれる美味しい柿づくりを目指して、有機質配合肥料の施用、整枝・剪定による日照改善、基本管理の徹底に心がけています。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	320a
┌ 極早生	20a
├ 刀根早生	150a
└ 平核無	50a
└ 富有	100a
○労働力	
家族労力	2人
雇用	5～6人

また、農作業の効率化、軽作業化のため、SS、乗用モーター等の省力化機械を導入し、約8割の園地に園内道を設置しています。

柿の剪定作業は、基本的に妻と二人で全て行っており、園地を完全に分けており、剪定鋸一丁で鉢は一切使わずに全行程をこなしています。

他方、経営的には農産物をいかに販売するかです。昔ながらのJAのみの出荷でなく、直売所や顧客への販売などの販路開拓により少しでも収益増加を図ることが重要と考えています。



柿の剪定作業

### 3. 今後の経営方針

現在、我が家の柿の面積は「刀根早生」に偏重しているため、収穫労力分散の観点から、高接ぎ由来「刀根早生」の伐採や「紀州てまり」、「太豊」など甘柿の新品種への改植（高接ぎ更新）などにより品種構成の見直しを考えています。

畑が道路沿いにない園地では園内道未設置となっており、また、獣害対策の防護柵についてもカズラ等の蔓の巻き付きの対応策、花の空き施設の有効活用についても思案中です。

施設のビニール張り、柿の剪定など農作業の助け合い（共同作業）を通して、地元周辺の若手農業者との交流し、また剪定技術力を高める機会として活動を続けています。



趣味の釣りでリフレッシュ

さらに、雇用労力の安定確保のためにも農閑期に魚釣りなどレジャーを開催し、人の繋がりを大切にしたいと思っています。

### 4. おわりに

県外のホテルや旅館に宿泊した時に思うのですが、その従業員との会話で「和歌山産のフルーツと聞くとなんか思い浮かぶか」を尋ねると必ず出るのが、みかんと梅だけです。

和歌山県は柿生産量日本一と言いますが、いかに認知度が低いことか、外に出て痛感します。生産者の努力も必要ですが、行政やJA主導により消費宣伝や啓発活動により認知度を高めていく必要があると思います。

また、近年の天候の異変に対して適地とされていた柿も少しずつ栽培しにくくなっているのが現状です。今では、毎年天候に対する順応性の未熟さを痛感しています。初心に帰って少しでも対応できる技術力を身に付けられるように頑張っていきたい。



傾斜地（階段状）に設置した園内道

# 私の農業

## みかんの「味」にこだわって ～ 情熱を未来につなぐ ～

有田市 指導農業士

鳴川 耕平



### 1. はじめに

高校卒業後、みかん農家を継ぐのが当たり前と思  
い、就農しましたが、全国の生産量が360万tを  
超え、15kg箱が1,000円を割る厳しい時期でした。

そんな状況で、父親が1haあまりの農地を新た  
に購入したのは、思い切った決断だったと思ってい  
ます。

個人で市場出荷しており、「田村」や「新堂」と  
いったブランド地域ではないものの、糖度の高い  
年には思った以上の価格となり、市場で食べた他産  
地のみかんが、酸の無い味気ないものだったため、  
「味」にこだわって栽培する意識を持ちました。

### 2. 農業経営の特徴

20年程前に、私のような「味」へのこだわりを  
持つ農家5人が集まって、「ありだ倶楽部」を結成  
し、肥料や栽培管理方法の統一、定期的な園地巡回  
での生育・着果状況の確認や糖酸検査により、「コ  
ク」のあるみかんの安定生産に努めています。

肥料は、魚ぼかしペレットを春（5月上旬）と秋  
（9月終わり～10月初め）に施用するとともに、魚  
エキス液肥を年間60回葉面散布し、酸の維持を図っ  
ています。

剪定は、特徴的な方法など試行錯誤していた時、  
無剪定の話を聞き、5年間実践したところ、着果量  
が安定し品質も良くなったため、その後30年にわ

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	250a
（極早生	30a）
早生	120a
普通	100a
中晩柑	30a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	7人（250日）



魚エキス液肥



園地風景（無剪定樹）

たり間伐のみ行っています。

また、摘果時の雇用が確保しづらくなってきたことから、スソやフトコロ部に摘果剤（フィガロン）を散布し、省力化を図っています。

収穫時の雇用については、子供のいる女性も来てもらいやすいフリータイム制にしました。

収穫前に、樹の北側スソ部の3果を糖度測定し、11度以上～14度以上の4段階に樹を仕分け、糖度別に選別・箱詰めしており、我が家ではマルチを敷設しませんが、ほぼ毎年、12度以上の出荷量が6～7割あります。

会員制の団体向けの販売が約6割を占めており、等級は2段階で、店舗販売用のスタンドパックを10kg箱に入れて出荷しているため、出荷調整の労力が、個選農家では少ないと思います。

市場中心から移行するきっかけは、メンバーの知人で、「神戸の親方」と呼んでいるその団体関係者からの「味の良いみかんを九州や愛媛で販売したい」という相談でした。

みかん産地での販売は正直不安でしたが、メンバーの意見がまとまり、月250ケースから始めたところ要望数量は年々増え、現在では1回400ケース、月5,000ケース以上となり、自分達のみかんの「味」に自信を持つことができました。



スタンドパック

### 3. 今後の経営方針

現在、60歳の私が代表を務めており、他のメンバーは67歳と50代3人で、今のところ後継者はいない状況です。

販売が軌道に乗っていることから、規模拡大により出荷量を増やしたいと思っています。そのためには、摘果等の労力軽減や間伐等による働きやすい園地づくりに加え、後継者や雇用、新しい仲間の確保に取り組む必要があります。

さらに、10年後を目途に法人化を目指し、組織を発展させていきたいと考えています。

### 4. おわりに

「おいしいみかんを多くの消費者に届けたい」という思いから、有田市のふるさと納税返礼品にも出品しています。

昨年のような大型台風の襲来や、今年のような温暖多雨など、みかん栽培に厳しい状況が続いていますが、生産量だけでなく、「味」でも日本一のブランドを築くため、「出来たみかん」ではなく「作り上げたみかん」を食べてもらえるよう、これからも情熱を持って栽培に取り組み、400年の歴史ある産地を未来につないでいきたいと思っています。



出荷ダンボール

## 日本一の梅産地をまもっていききたい

みなべ町 指導農業士

松川 哲郎



### 1. はじめに

私は県立南部高校を卒業後、昭和52年に就農しました。

就農時はハッサク、キンカン、梅（南高、古城）、水稻を栽培していました。中でも青梅で農協に出荷する古城は「青いダイヤ」と呼ばれ、とても高値で販売されたため経営は順調でした。

ところが、昭和の終わり頃、ミカンの生産過剰やオレンジの輸入自由化等の影響を受け、ハッサクの価格が暴落しました。そのため、ハッサクを伐採し梅（南高）へ転換しました。

### 2. 農業経営の特徴

現在は梅を中心とした経営で、主に青梅はJAへ梅干しは加工業者へ出荷しています。

しかし、お客さん（消費者）の顔が見えないことを疑問に持ち、消費者との距離を縮めようと、県が運営する「わいわい市場」への出店や自身のホームページを作成して青梅と白干し梅のネット販売を始めました。

すると、消費者から白干し梅ではなく調味梅干しを望む声が多くあり、数年前に2次加工施設を設置して「シソ漬け梅」と「ハチミツ梅」を作っています。

2次加工を始めてからはネット販売が増えました。また加工業者とのつきあいも増加して人脈の幅が広くなりました。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	5ha
キンカン	23a
○労働力	
家族	3人
常時雇用	1人
臨時雇用	3～4人



梅パイロット園



梅干し作業



最近は、量販店やスーパーへも調味梅干しを販売しています。

キンカンについては、果実や加工品（甘露煮、ジャム）をネット販売しています。

以前、価格が低迷した時代があり、ハッサクと同じく伐採しようと考えましたが、父親に「切るな」と言われキンカンは残しました。現在はそれが幸いし、希少価値が出て重宝しています。

### 3. 今後の経営方針

最近、法人化に向けていろいろと勉強しています。法人化できれば、周辺で増加している耕作放棄地を借受けて規模拡大し、常時雇用者を3～4名に増やしたと考えています。

また、調味梅干しの販売をもっと増やし安定した経営を行っていきたいです。

### 4. おわりに

みなべ町の農家の平均年齢は65歳と高齢化が進んでいますが、梅干し価格が安定し農業収入が向上すれば後継者はたくさん残ってくれると思います。

私は、県外の消費者へもっと梅干しを販売し、地元へたくさんお金を落としてもらうことで地域の活性化に繋がっていきたいと考えています。



キンカン



梅もぎ取り体験参加者と

## 100点満点の「笑み」をいただける農産物販売をしていきたい

田辺市 指導農業士

木村 則 夫



### 1. はじめに

私は、17年間勤務した会社を退職し、平成3年から実家の農業（柑橘・梅）を継いで今日に至っています。当時は現在の栽培品目に加え、水稻13a、スモモ13aも栽培していました。また梅バブルの時代でもあり、儲からない柑橘から梅への転換も進んでいました。

### 2. 農業経営の方針と状況

36才で就農しましたが、地元JAの各部会や生産販売委員会の役員に携わることが出来たので、農家やJAがどうやって市場で販売しているかがよく分かるようになりました。市場関係者の情報も自然と多く入るようになって、産地間の生き残り競争が止めどなく続いていることにも気づかされ、「こんな競争に我が家の柑橘や梅の全てが巻き込まれたら経営は大変だ」と思いました。

農業を引き継いだ年に経営移譲を行っていましたので、これからは自分の力だけで農業経営を行っていかねばなりません。幸い、両親は早くから柑橘の産地直送を行っていて、私の記憶では、私が中学生の頃に、郵便局や旧国鉄に柑橘の入った木箱を持ち込んで、直接消費者に向け発送していました。自宅で産地直送を行っていたおかげで市場関係者からは聞こえてこない消費者の生の声が毎日のように届きました。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
柑橘類	150a
(温州みかん、清見オレンジ、バレンシアオレンジ他)	
梅	50a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	4人

これから経営を行っていく上で効率の良い卸売りや収益率の高い小売りのバランスを取りながら、出来るだけ小売りにシフトしていく必要があると感じるようになりました。

徐々に宅配のシステムが全国的に普及し、収穫した農産物が翌日には消費者に届く時代となり、わざわざ運送会社に荷物を持ち込む必要がなくなり、宅配の時間的なロスも徐々に減っていきました。また産地直送の事務的な処理はパソコンを駆使することで、もう少し宅配を増やしてもやっていけるのではないかと思いました。

インターネットが普及してきた頃に、自己流でホームページを作り、ネット販売も始めました。周辺の農家からは「ネット販売で売れるのか」、「お金は払ってくれるのか」と冷やかしを受けました。

当初は柑橘を販売したかったのですが、なかなか

厳しく、ホームページを見たお客さんからは、「紀州の梅を販売してもらえないか」との問い合わせをたくさん受けました。思い切って梅の販売予約を受け付けると、すごい勢いで注文が舞い込み始めました。今は当時の梅のお客さんに柑橘を購入していただいています。



ホームページでのネット販売

パソコンが好きだったことから、地元の直売所やジュース工場、都市と農村の交流施設の開設や運営にも携わりました。

これまで捨てている感覚だった加工用ジュースみかんも最低 60 円 /kg ほどの収入が得られるようになりました。

その他、テレビ局と連携することで、みかんのオーナー制などの新たなみかん販売への道も開けました。また年 3 回、直売所の出荷者と共同作業で柑



農業ワーキングホリデーの受け入れ

橘や 6 次産業化商品の詰め合わせセットの全国発送作業も行っており、力を合わせる大切さを常に学んでいます。

さらに、農業ワーキングホリデーなどの受け入れをすることで、自分の農業の将来を考えることが出来るようになりました。

### 3. 今後の経営方針

これからも 100 点満点の梅や柑橘は、私の栽培技術では無理ではないかと思えます。これまで同様に、柑橘や梅を直接消費者にお届けして、100 点満点の「笑み」をいただけるような農業を続けていきたいと思えます。

### 4. おわりに

いつもこのページに掲載されている農業士のみなさんは、高品質生産で高単価な販売をされている方ばかりですが、私のような農業があってもいいのではないかと思います。あと何年このスタイルの農業が続けられるかは分かりませんが、「終農」にならないように頑張っていきたいと思えます。



地元直売所出荷者との共同作業

# 農業に懸ける思い

## 農業を通じた交流

海南市 和海地方4Hクラブ連絡協議会

志賀友哉



### 1. はじめに

私は、県内の農業高校を卒業して数年後に就農しました。現在、就農して7年目です。高校のときは、果樹も野菜も花もすべて勉強しましたが、小さい頃から親の仕事を見ていたこともあり、自然な流れでみかんを作りたいと思いました。JAながみねの青年部には6年前から加入しておりますが、昨年から新たに和海地方4Hクラブに入りました。

### 2. 農業への思い・取り組み

農業は楽しいです。特にモノができた時がうれしいです。難しい作業は剪定で、父親と2人でやっております。今年から『下津の蔵出しみかんシステム』が日本農業遺産に認定されたこともあり、自分のつくっている貯蔵みかんのPRができるところが嬉しいです。

昨年から加入している和海地方4Hクラブですが、様々な品目を作っている人が集まっているため色々な話を聞けることが自分にとっての刺激です。月1回の定例会で情報交換をして、作り方や販売の方法など、新しい発見があり、勉強になることも多いです。地域だけでなく、県内の4Hクラブのメンバーともつながれるので、この1年でつながりが増えたと思います。

私が就農してから今まで、大きな被害といえば、一昨年の台風21号です。樹が何本も倒れましたが、起こして作り続けています。2年前の収穫時期の大雨も被害が大きかったです。畑が川のようになり、みかんが全て加工用になったこともありました。最近ではイノシシ等の鳥獣の被害も増えてきています。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	100a
中晩柑	10a
(八朔、甘夏、デコポン、清見等)	
○労働力	
家族	3人

自然災害など大変なことがあります。作物を作るのは好きです。フェイジョアにも興味があり、何本か作付けしています。ニンニクや玉ネギ、ブロッコリーなども趣味で作っています。これからも、つながりを大切にしながら農業を続けていきたいです。



林温州の収穫



自宅の前の貯蔵庫

# 農業に懸ける想い

## 果樹農業の可能性

紀の川市 青年農業士

児玉 悠 詩



### 1. はじめに

大学卒業後就農し、15年目になります。最初は販売に力を入れました。祖父の代から桃・柿・みかんを栽培し、市場出荷するよくある果樹農家でしたので、生産拡大より伸ばしていない販売と加工を考えていましたが、まずは販売からだと思い、当時、まだ珍しかった直売所での販売に取り組み始めました。

農家というよりも、農業経営という感覚が強かったので、自社の商品が通用するかどうか試したかったからです。

### 2. 農業への想い・取り組み

直売所出荷から始め、スーパー等への実績を通じ、ノンブランドでも品質が良ければ通用するとの手ごたえを感じ、就農当初から考えていたインターネット販売に取り組み、今年で7年目を迎えます。今では、売り上げの4~5割を占めるようになりました。最初は赤字が続き、3年で結果が出なければやめようと思っていたのですが、3年目にお客さんが付き、軌道に乗ることができました。年間を通し農産物を販売できた事が大きな要因だと思います。しかし、空白の販売期間もあり、売れる品目、隙間を埋める農産物の生産を増やしたいと考えています。

まず、生産拡大で一番気を付けているのが適地適作です。人口減少に伴い、消費の落ち込みが予想できるなか、消費者に何度も買ってもらえる味の良い生産を行うことの大切さを、自らの販売によって痛感しました。

次に、大切なものは労働力です。適期に作業を行うことから、労働力が必要となります。地域の果樹農家では、桃や柿等の繁忙期に短期アルバイトを入れる形態が多く、我が家も同様でした。短期アルバイトは、地域全体が同時期に労働力を必要とし、確保が難しくなります。そこで、経営の安定を考え、2017年から常勤従業員1人を雇用しました。果樹では繁忙期と閑散期の仕事量に大差があり、仕事を満遍なく作ることがネックでしたが、栽培品目と面積を考えることで、年間を通し満遍なく仕事量を確保するこ

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	80a
柿	1ha
キウイ	40a
柑橘	1ha
○労働力	
家族	3人
常雇用	1人

とができ、無理なく雇い入れることができました。

現在は、従業員の剪定技術向上とモチベーションの向上を図るため、請負分については、給料との差額分をボーナスとして支給することとし、「自園地の剪定を早く終わらせて請負剪定に行こう！」と持ち掛け、本人もやる気になっています。

これにより、農作物販売以外の売り上げを確保でき、経営が安定し、雇用の安定にもつながり、状況を見ながら改善し組織化していけたらと思います。

現在36歳、先をいく先輩方にアドバイスをもらいながら、どこまでやれるか楽しみながら農業をやっています。



桃の剪定



はるみの栽培

# 農業に懸ける想い

## 水稻・野菜・柿との複合経営 ～ 美味しい農産物生産をめざして ～

橋本市 地域農業士

碓 和 也



### 1. はじめに

私は、4年間の勤めを経験した後、平成6年（24歳の時）に就農し、今年で26年目になります。実家は元々兼業農家で、水稻、柿、みかん、イチゴなどを栽培しており、中学生の頃から色々な農作業を手伝ってきました。

就農当初は、紀の川市桃山町内で植木苗やグラウンドカバープランツの生産農家の方に指導をいただき2～3年の間、主にヘデラ類（つる性植物）を栽培していましたが、実家の近くに市営ゴミ焼却場建設により、農地が収用され、代替え地の農地では水の確保ができなくなったため、水稻を中心に、柿、野菜などに品目転換を図りました。

### 2. 農業への想い・取り組み

就農当初は水稻 15a、柿 30a、みかん 20a、ヘデラ類などの栽培でしたが、順次、水田を借り受け、現在では早生種 10a、きぬむすめ 70a、ヒノヒカリ 20a の計 100a に規模拡大しています。

柿は「刀根早生」30a、「富有」20a であり、野菜は、トマト、ナス、キュウリ、オクラ、マクワ、カボチャなど多品目を、裏作として、タマネギ、ニンニク、ジャガイモなども栽培しています。販売先として、柿はJA、野菜は地元直売所、米は顧客中心に自分で販路を開拓しています。

農作業は、柿のせん定に始まり、3月にはタケノコ掘り、4月以降は柿の摘蕾、夏野菜の植え付け、稲作の耕起など大変な農作業が続きますが、消費者に喜ばれる美味しい農産物を作ることが、販売量の増加に繋がっていくと信じて日々の農作業に励んでいます。

このため、土づくりとして、牛糞堆肥 2 t /10a を目標に、作物残渣や刈取った雑草を積み込み堆肥化しています。軽作業化の取組として、水稻用農機一式のほかジャガイモ掘り機、水田畔塗り機、パワーショベル等を整備しています。一方、最近、猪等の獣害が増加しているため、水田を全て電柵で囲い被害防止を図る

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	100a
野菜	20a
柿	50a
○労働力	
家族	2人

とともに、狩猟免許を取得し獣類の捕獲にも力を入れています。

最近、急激な気候の変化が大きく、その対応に苦労しますが、労力に見合った経営規模で消費者ニーズに合った野菜の少量・多品目生産により、年間を通して収益が得られるように品目を組み合わせて栽培していきたいと思っています。



玉葱の定植作業



柿の剪定作業

# 農業に懸ける思い

## 効率的な美味しいみかん作り

有田川町 青年農業士

井 口 拓 哉



### 1. はじめに

私は、県農業大学校（現在：県農林大学校）卒業後、いずれは実家の果樹農家を継承したいと考えていましたが、「若いうちにいろんな経験を積みたい」との思いから、ハウスみかんを中心に栽培している高知県の篤農家へ1年間住み込みで研修へ行ったり、社会勉強のための民間企業就職をへて、2015年から本格的に就農しました。以前は、120a程度の経営面積でしたが、就農を機に近隣の園地を借りて160aまで拡大しているところです。栽培品目は、早生の温州みかんが中心で、収穫が忙しくなる11月～12月は、季節雇用者に収穫を手伝いに来てもらっています。

### 2. 農業への思い・取り組み

現在、園地ごとに品種が統一されていないことが一番の問題で、‘宮川早生’と‘田口早生’へ品種を揃えるよう改植に取り組んでいます。また、スプリンクラーや園内道についても全ての園地で整備していきたいと考えており、農作業の効率化について計画的に進めているところです。

さらに、労働力分散の取組として、老木化が原因で休止していたハウスみかんを‘ゆら早生’に改植して再開する計画や、温州みかん以外の中晩柑類についても今後導入してみたいと考えています。

出荷は個選で関東の市場が中心ですが、我が家のみかんを食べてくれたお客さんから直接リピートの電話注文が入ったときは、日々の大変な農作業の疲れが吹き飛ばすほどやりがいを感じます。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	160a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	4人

青年農業士になったばかりですが、先輩方からのアドバイスをうけたり、仲間と意見交換しながら、さらに美味しいみかんが作れるようがんばっていきます。



山間ほ場の様子



ハウス再開に向けて取組む様子

# 農業に懸ける想い

## 次世代へと繋がる農業を目指す！

御坊市 青年農業士

齋藤喜也



### 1. はじめに

高校を卒業後、三重県の農林水産省野菜・茶業試験場（現 農研機構野菜花き研究部門安濃野菜研究拠点）で2年間研修を受け、平成14年に就農しました。父に教わりながら、スターチスをはじめ数品目の切り花を手がけましたが、今はスターチスとチドリソウに落ち着いています。また、花きの後作に小玉スイカとメロンを作付けして収益向上と雇用労力の有効活用を図っています。

### 2. 農業への想い・取り組み

私が住む名田地区は施設園芸が盛んで若い農業者が多いところです。JA青年部ではそんな仲間たちとともに、母の日の起源とスターチスの花言葉「変わらぬ心」から母の日にあわせてお墓参りをし、先祖に花を手向けることを通じて命の尊さと家族愛を確認してほしいという「母の日参り」を提案したり、「フラワーボーイズ」として花の消費拡大に取り組んでいます。こうした活動を通して仲間との絆を強め、人との出会いに恵まれることが、農業に打ち込む活力に繋がっています。

わが家の経営の柱であるスターチスは、子供の頃



誰もが「きれい！」と喜ぶ花を…

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
スターチス	90a
チドリソウ	8a
小玉スイカ(※)	30a
メロン(※)	30a
(※)は花きの後作	
○労働力	
家族	4人
雇用	5人

から常に身近にあったいわば「ふるさとの花」で、御坊市では農福連携にも用いられています。この花の魅力や可能性を多くの人に知ってもらい、もっと使ってもらえるよう活動を続けて、産地を盛り上げていきたいと考えています。

一方、切り花だけで利益を上げることは以前より難しくなってきました。私も今年から新たにイチゴ栽培に挑戦しています。これからも安全・安心な、そして「おいしい。きれい。」と人が笑顔になる農産物づくりを心掛け、稼げる農業を実践していこうと思います。



自慢の小玉スイカ



# 農業に懸ける想い

## さらなる高品質安定生産を目指して！

田辺市 青年農業士

天野 佳友



### 1. はじめに

私は高校在学中に祖父が亡くなり、卒業後すぐに就農しようと考えていたのですが、父親の勧めもあり県農業大学校（現農林大学校）に進学し、卒業後就農しました。

祖父と一緒に作業しながら教えてくれるはずの農業技術は残念ながら受け継ぐことは出来ませんでした。これまで地域の先輩やJAの営農指導員に一人から教えていただき、もうすぐ就農して20年目を迎えようとしています。

### 2. 農業経営への想い・取り組み

私が農業をはじめたころは、温州みかんの単価が低価格な時代で、40円/kgの時もありました。この価格では、赤字経営で自分の作業賃金も出ない状況でした。

しかしスーパー等の小売店での販売金額は198円/kg、小売販売している農家では250円～300円/kgでした。

また当時の先進的な取り組みとして、インターネットによる販売を行っていた農家から話を聴くと「儲かるけどしんどい」とのことで、基本的に1人で農作業をしていた私にはインターネット販売に取り組むのは困難だと思いました。

数年後、あるイベントで「温州みかんを売ってみたいか」との話があり、とりあえず一度やってみることにしました。販売単価は500円/kg、評判も良く追加の注文も何度か受け、農作業の時間を削られながらも何とか対応することが出来ました。どれくらいの手取り単価になったか計算してみると123円/kgでした。ちなみに同じ時期にJAへ出荷した単価が平均150円/kgでしたので、まだまだ販売面での工夫やもっと品質の良いものを作ることが

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	250a
温州みかん	50a
水稻	10a
○労働力	
家族	3人

大事だなと感じました。自分で販売もやってみていい経験になりましたが、品質の向上やさらに収量を増やしていくためにはもっと栽培技術を磨かなくてはいけないと改めて感じました。

これからさらに、栽培技術の向上に力を入れていきたいと思っています。



新植した温州みかん園



改植した梅畑

### 「和歌山県オリジナルカンキツ品種の紹介」 ～ 中晩柑 ‘はるき’、晩生ミカン ‘植美’ ～

果樹試験場 栽培部 主査研究員 田嶋 皓

#### 1. はじめに

近年、異常気象等の影響により、高品質なカンキツ果実の安定生産が難しくなっています。中晩柑類では豊作と不作を繰り返す隔年結果や、雨風により発生が助長されるかいよう病などの病害が大きな問題となっています。また、ウンシュウミカンでは秋期以降の高温多湿により、浮皮をはじめとした果皮障害が多発する年があり、それらに対応できる優れた品種の育成が求められています。

和歌山県果樹試験場では生産者の所得向上のため、栽培性に優れ食味の良い県オリジナル品種の育成を目指し、カンキツ育種に取り組んでおります。今回、栽培が容易で食味が良い中晩柑 ‘はるき’ と、同じく栽培が容易で浮皮になりにくい晩生ウンシュウミカン ‘植美’ を育成しましたので紹介します。

#### 2. ‘はるき’ について

##### 1) 育成経過

2002年5月に‘清見’に‘中野3号ポンカン’を交配し、得られた交雑個体を果樹試験場内園地に接ぎ木しました。2008年から果実品質調査を開始し、果実品質や栽培性、関係者による試食評価などをもとに、73個体の中から最終選抜を行いました。その後品種登録出願を行い、2019年3月22日に出願公表されました。

##### 2) 特徴と今後の普及について

成熟期は3月であり、果実重は180g程度です。浮皮などの果皮障害はほとんど発生しないため外観は良好です(図1)。果実の剥皮性は良く、食味は良好です。また、さじょうが大きくさくさくした食感が特徴です。糖度は13～14度、クエン酸含有率は‘清見’と同程度に推移します(図2)。樹勢はやや強く新梢にトゲの発生がみられますが、結実とともに短くなります。

品種名は「春の紀州を感じる果実として流通してほしい」との思いから命名されました。かいよう病や果皮障害の発生が比較的に少ないため、栽培は容易な品種と考えられますが、詳細な栽培特性は現在調査中です。なお、苗木の流通は早くて2021年春からとなります。



図1 ‘はるき’ の果実

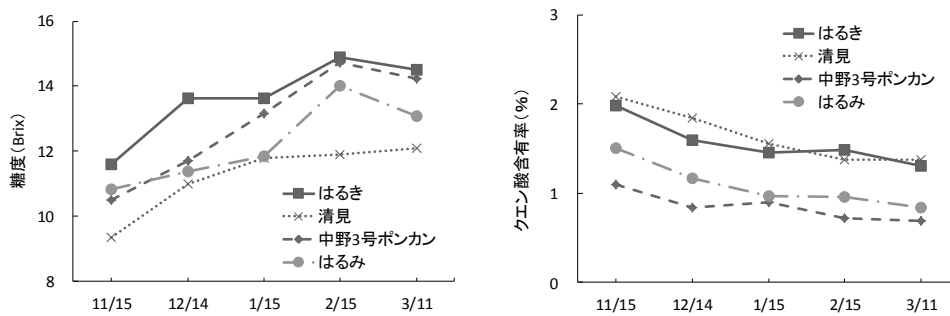


図2 ‘はるき’ および対照品種の糖度とクエン酸含有率の推移  
(2018年11月～2019年3月)

### 3. ‘植美’ について

#### 1) 育成経過

‘植美’は、2006年に有田川町出の植田氏の園地で発見された‘尾張系’の一樹変異個体です。同年から果実調査を開始し、対照品種である‘林温州’や‘尾張系’（以下、対照品種）と比較して浮皮が安定して少なく、同時期に調査した晩生系統の中でもっとも栽培性に優れる個体であったことから最終選抜を行いました。その後、品種登録の出願支援を行い、2017年8月18日に出願公表されました。

#### 2) 特徴と今後の普及について

果実の外観は対照品種とほぼ同じですが、腐敗や貯蔵性低下の原因となる浮皮程度が小さいのが特徴です（図3）。12月中旬における糖度は対照品種とほぼ同等、クエン酸含有率は0.8%程度で食味は良好です。対照品種と比較して葉は小さく節間が短い傾向を示すことから、樹勢はやや弱いです。また、枝が下垂しやすいため樹はコンパクトで大木にならず、収穫やせん定などの管理作業が容易に行えるという特徴があります（図4）。なお、苗木の流通は早く2020年春からとなります。

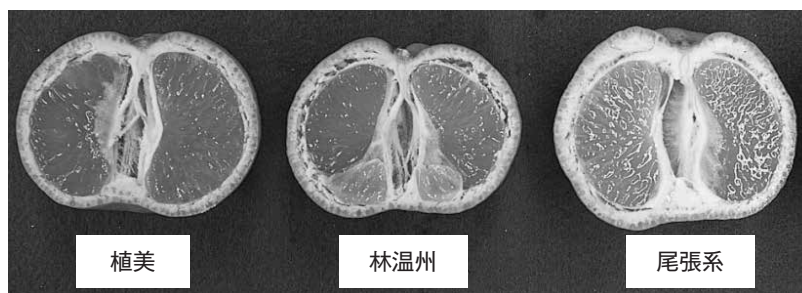


図3 ‘植美’ と対照品種の果実断面



図4 ‘植美’ の下垂した枝

### 4. まとめ

今回紹介した2品種は、現段階ではまだ苗木から結実させた事例はないため、詳細な特性は今後の栽培試験の実施により明らかにしていく予定です。

カンキツ育種は本県だけでなく、国立研究開発法人農研機構でも実施されており、雑柑類を中心に多くの品種が育成されています。新品种の栽培を検討されている方は、植栽の前に各品種の長所、短所を事前に把握し、計画的に改植することをおすすめします。また、すぐに改植するわけではなくとも、新品种に関する情報は今後さらに重要になってくると思います。果樹試験場では新品种育成に取り組むとともに、情報発信も積極的に実施していきたいと考えています。

# 試験研究レポート

REPORT

## 実エンドウ新品種「みなべ短節間1号」の特性

農業試験場暖地園芸センター 育種部 主査研究員 田中 寿 弥

### 1. はじめに

本県の実エンドウは、出荷量が全国1位の品目であり、日高地域を中心に産地が形成されています。しかし、主力品種「きしゅうすい」は、ハウス栽培での草丈が高く、収穫や誘引などの作業性が悪く課題となっています。そこで、節間が短く、草丈の低い実エンドウ品種の育成に取り組み、現地ほ場で発見された「みなべ短節間1号」を有望品種として選定したので、その特性を紹介します。

### 2. 「みなべ短節間1号」の育成経過

2015年に日高郡みなべ町の「きしゅうすい」栽培ほ場において、節間が短い矮性個体が発見されました。この個体から後代種子を採種し、2016年、2017年の2カ年に渡り、特性調査を行い、いずれの年も「きしゅうすい」に比べて節間が短く、莢の外観品質が同等であることが確認できました。2018年4月に関係機関との品種検討会を開催し、この系統を短節間有望品種に選定しました。そして、2018年12月に、発見ほ場園主の大野光男氏が「みなべ短節間1号」と命名し、品種登録出願を行い、2019年3月14日に出願公表となりました。

### 3. 「みなべ短節間1号」の特性

- ・節間長が「きしゅうすい」の75%程度と短く、草丈の低い品種です（表1、図1）。
- ・初花房節位が「きしゅうすい」と同等かやや高く、開花開始時期、収穫開始時期が「きしゅうすい」よりもやや遅い、晩生タイプです（表2）。
- ・時期別収量は、「きしゅうすい」よりも2月までの前半の収量が少なく、3月、4月の後半の収量が多くなります（図2）。
- ・莢の大きさは、「きしゅうすい」と同等からやや小さいです。
- ・莢、青実の色、形などの外観品質は、「きしゅうすい」と同等です（図3、4）。

表1 「みなべ短節間1号」の節間長

品種	節間長 (cm)	
	2016年作	2017年作
みなべ短節間1号	7.9 (78)	8.3 (73)
きしゅうすい	10.1 (100)	11.4 (100)

注) 節間長は初花房節位上下各5節の平均値  
( ) の値は「きしゅうすい」対比 (%)



図1 「みなべ短節間1号」の草姿  
注) 左:「みなべ短節間1号」、右:「きしゅうすい」

表2 「みなべ短節間1号」の初花房節位と開花、収穫開始日

品種	初花房節位 (節)	開花開始日 (月/日)	収穫開始日 (月/日)
みなべ短節間1号	28.3	11/28	2/15
きしゅううすい	27.9	11/23	2/3

注) 播種日：2017年9月20日。開花促進処理なし。

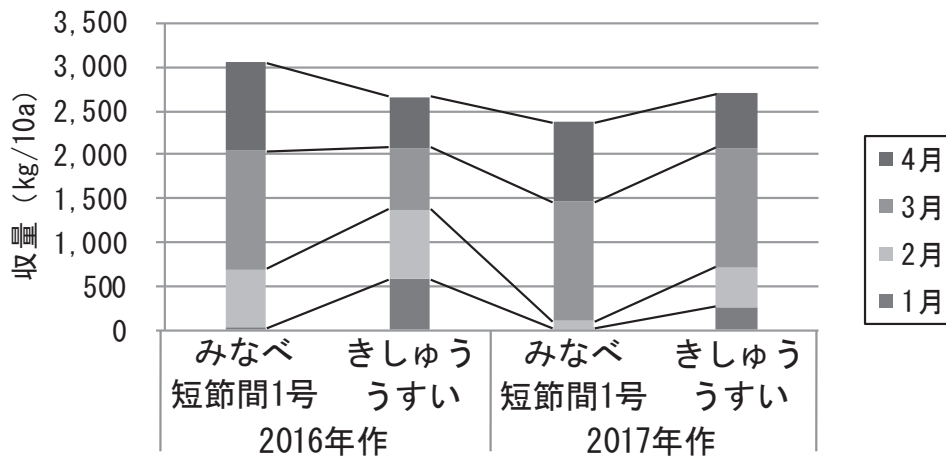


図2 「みなべ短節間1号」の時期別収量

注) 播種日：2016年作；9月28日、2017年作；9月27日

3～8葉期に白熱電球により18時～6時の間終夜電照を行った



図3 「みなべ短節間1号」の莢

注) 左：「きしゅううすい」、右：「みなべ短節間1号」



図4 「みなべ短節間1号」の着莢

#### 4. まとめ

「みなべ短節間1号」は、主力品種「きしゅううすい」と莢形質が同等であり、主枝長、節間長が75%程度と短いことから、収穫等の作業の省力化につながる非常に有望な品種です。現在、JAや振興局と協力して、現地圃場での特性調査を行っています。今後、「みなべ短節間1号」の産地導入に向けて、関係機関と協力し、栽培技術の確立や栽培用種子の準備を進めていきます。

# 試験研究レポート

REPORT

## サカキを加害する新種ヨコバイの生態と防除

林業試験場 特用林産部 主任研究員 田中 作治

### 1. はじめに

和歌山県は、神棚、神社等にお供えをするサカキの国内生産量の約7割を占めており、日本一のサカキ生産県となっています。

しかし、平成14年頃からサカキの成葉に原因不明の白点が無数に発生する被害が確認され、近年、被害は県内全域に拡大し、サカキの商品価値を下げることから大きな問題となっています。調査の結果、害虫被害で新種のヨコバイによる吸汁被害であることがわかりました。

林業試験場では、平成28年からこの新種ヨコバイ（以下「ヨコバイ」とする）の生態及び防除方法を確立するために試験研究を実施しており、今回はその内容についてご紹介します。

### 2. 試験研究の内容・結果等

#### 1) 害虫の特徴

ヨコバイは体長約4mmでサカキの葉裏から吸汁し、その吸汁痕が白点となって表れます。オス、メスは体色の違い（オスはメスより体色が濃い）とメスが産卵管を持っていることで区別できます（写真1）。また、成虫は黄色に誘引される傾向があります。

また、イネの害虫としてよく知られているツマグロヨコバイは生息密度が高いのですが、このヨコバイは生息密度が低いので発見が難しいのが特徴です。



写真1 ヨコバイ成虫（オス）

写真2 ヨコバイによるサカキ商品の白点被害

被害状況は葉の表面に白点が生じ、小花くぐりに結束した際に白点部分が目立ち、商品の見た目が悪くなり、販売できないことから生産者の生産意欲を減退させています（写真2）。

#### 2) 発生消長調査（ヨコバイがいつ、どのように発生するのか調査）

栽培サカキ（25年生）林内に、黄色粘着トラップ（H=1.5m,W=0.4m）を3箇所設置し、成虫捕獲数を調査しました。

その結果、春先から孵化～羽化を複数回繰返し、特に5月、8月、10月に捕獲数が多くなることから成虫の発生ピークとなることがわかりました（図1）。

また、成虫が越冬することもわかりました。



# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 令和元年度和海地方農業士会活動ダイジェスト

和海地方農業士会事務局

### 1. 総会及び研修会を開催

和海地方農業士会（宮尾修司 会長）は、平成 31 年 4 月 12 日に紀三井寺ガーデンホテル はやしにおいて平成 31 年度総会及び研修会を開催しました。

総会は会員 40 名の出席のもと、平成 30 年度活動経過及び 31 年度活動計画が議案書のとおり承認されるとともに、役員改選で新会長に水谷好宏氏（紀美野町）が承認され、三役や理事も新たな顔ぶれとなりました。

総会終了後には、和歌山大学食農総合研究所の辻和良特任教授から「みかん産地の労働力と担い手の確保ー西宇和みかん支援隊の事例を中心にー」と題して講演をしていただきました。講演では、近年課題となっている労働力の確保について早くから産地を挙げて取り組まれている愛媛県西宇和地域の事例をお話いただき、当地方での取組にも大変参考になる研修となりました。



平成 31 年度総会



辻特任教授講演

### 2. 和海地方農業者交流会を開催

海草管内の農業者 4 団体（和海地方農業士会、和海地方青年農業経営者協議会、和海地方 4H クラブ連絡協議会、和海地方生活研究グループ連絡協議会）で構成される和海地方農業生活連絡協議会では、8 月 23 日に海南市総合体育館で農業者交流会を開催しました。

普段かかわることの少ない各団体の会員が一堂に会し、スポーツを通じて相互の親睦と農業や生活の情報交換及び健康増進を図ることを目的に毎年開催されており、今年は 14 チーム 51 人が参加しました。カローリングはカーリングをヒントにして考案されたスポーツで、ジェットローラーを的に向かって転がし中心に近い方が高得点となるゲームです。各チームがそれぞれ 3 試合を行い、合計得点で順位を競いました。

蒸し暑い中ではありましたが、参加者らは声を掛け合い和気あいあいと楽しんでおり、地域や栽培品目が異なり、日頃あまり交流ができない会員同士が楽しく交流できる貴重な機会となっています。





開会式



カローリング競技

### 3. 和海地方農業士会女性部会を実施

和海地方農業士会女性部会（部会員 12 名）では、年間を通じて様々な研修を実施しており、6 月 27 日、「サンショウ現地研修会×サンショウ料理講習会」と題して、海草管内の若い女性農業者にも声をかけ、女性農業者同士のつながりと知識習得を目指すための交流会を紀美野町で実施し 12 名が参加しました。

当日は、紀美野町の指導農業士である西くみ子氏のサンショウ圃場において、西氏から栽培等に関する説明を聞いた後、参加者から相談や質問が出され活発な質疑応答の時間となりました。

続いて、紀美野町総合福祉センターの調理室に移動し、紀美野町生石加工グループの寺中佐知子氏および上村尚子氏の指導のもとサンショウ餅づくりを行い、試食をしながら意見交換をし交流を深めました。参加者からは「家で子どもと作りたくなりました」や「サンショウの可能性が今後日本食文化に貢献する部分が多いにあると思いました」といった感想が出され、今回の研修ではサンショウの栽培と加工を経験する有意義な一日となりました。



サンショウ栽培の説明



サンショウ餅づくり

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 那賀地方農業士会の活動について

那賀地方農業士協議会事務局

### 1. 那賀地方農業士協議会県外研修の開催（那賀地方農業士協議会長 指導農業士 飯田勝）

当協議会では、平成31年2月25日、会員の資質向上と親睦を図るため、滋賀県東近江市にある酪農・加工直売（アイスクリーム）・レストラン・宿泊施設等を経営している農業生産法人 有限会社 池田牧場を訪問し、先進地研修会を実施しました。

池田牧場では、専務取締役池田喜久子氏から会社の取組内容等の概要説明を受けました。会社の前身は、酪農専門農家であり徐々に経営規模の拡大を行ったとの事で、経営の安定を目指すために取り組んだのが乳製品への加工との話であった。乳製品加工では、消費者に対し、食の大切さを直接伝えたいとの思いから取組み始めたが、全く加工経験がなく、保健所等の許可や味の決定等一つ一つの課題を解決しながら試作を行い試行錯誤の結果、健康志向で低脂肪のイタリアンジェラートを手がけ、酪農家が行うジェラートショップの開店を行ったとの説明があった。また、農家レストラン「香想庵」では、獣害捕獲された鹿や猪の肉、地元川魚等を使った料理の提供を行っていることや、宿泊体験施設の経営を開始し、滞在型の観光を目指し、様々なイベントを開催しながら、中山間地域の活性化を目的に、都市住民との交流を進めていきたいとの話をうかがいました。



有限会社池田牧場での研修



農家レストラン「香想庵」

### 2. 那賀地方農業士協議会女性部会カトリア会研修の開催

（那賀地方農業士協議会女性部会カトリア会長 指導農業士 長谷川美枝）

当女性部会カトリア会では、平成30年12月25日「多肉植物の寄せ植え講習会」、平成31年2月28日「料理講習会」を会員の資質向上のために実施しました。「寄せ植え講習会」では、地域農業士のダイマル農園 台丸谷久実氏による多肉植物の寄せ植え体験を行ったところ、11名が参加し、多くの種類の多肉植物の中から、会員それぞれが植物を選びお正月らしい飾り付けにより寄せ植えを行いました。研修会のあとは今後の活動について話し合いが行われ、普段なかなか顔を合わす機会がない会員同士の親睦を図ることが出来た。



完成した多肉植物の寄せ植え

また、料理講習会では、岩出市内の「アンデルセン（洋菓子店）」前野力ズイ氏を講師に迎え、料理講習会を開催しました。9名が参加し、梅ご飯や焼売、手羽先からあげ、大根サラダ等8種類の料理を作るなど技術の向上を図るとともに、親睦を深めながら研修を行いました。今後の活動についての話し合いや研修内容についての検討等を行いました。



完成した料理

### 3. 紀の川市農業士会総代会・研修会の開催（紀の川市農業士会長 地域農業士 山田泰寛）

平成31年3月26日、紀の川市打田生涯学習センター 視聴覚室において、総代会及び研修会を開催しました。

#### ①総代会の開催

総代会では、会員、関係者合わせて45名の出席のもと、

- 1) 平成30年度活動経過並びに収支決算報告
- 2) 平成31年度活動計画（案）並びに収支予算（案）
- 3) 役員改選

について審議され、それぞれ議案書等のとおり承認されるとともに、新役員が選任されました。

#### ②研修会の開催

総代会終了後には研修会として、1部は会員による体験発表を行い、2部は講師をお招きして講演会を開催しました。

体験発表では、地域農業士 宮楠園子氏から、「消費者の声を聞く野菜栽培を目指して ～美味しい野菜を届けたい～」と題して、農業を始めるきっかけや研修先での取組についての話のあと、現在の栽培品目（ハウス水ナス、ズッキーニ、レタス、小松菜、ハーブ等）や販売方法（契約出荷、JA出荷、飲食店、消費者への直売等）について、料理人や消費者の方々と直接話をしたり、畑を見てもらったりすることにより相互理解を深めることで、仕事のモチベーションを維持しているとの話がありました。今後は、今まで築いてきた信頼を保ち、美味しい野菜作りを行うとの発表を行っていただきました。

講演会では、「和歌山県工業技術センターの取組について」と題して、和歌山県工業技術センター主査研究員中村允氏から、技術センターでの概要や取組内容（企業支援・先行的技術開発の強化・フードプロセッシングラボ等）、外部機関との連携、加工機械の紹介や加工事例の紹介等について講演を受けました。参加者から、はね酵素剥皮技術や、ため池の水処理方法等について熱心に質問が行われました。



挨拶：農業士会 会長 山田泰寛氏



体験発表：宮楠園子氏



講演：中村允氏

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 伊都地方農業士連絡協議会の活動

伊都地方農業士連絡協議会事務局

### 1. 総会及び研修会の開催

平成31年4月16日、伊都振興局において伊都地方農業士連絡協議会の総会が開催され、会員ら40名が出席、全ての議案が承認されました。退任される農業士や新規認定された方、一人ひとりからご挨拶をいただきました。

総会後の研修会では県観光局観光交流課の森下元喜氏から「青年海外協力隊派遣体験談」と題して、ご講演をいただき、派遣先のフィリピン国キシホール島での活動内容、困難なこと等について説明があり、出席者らは熱心に聞き入っていました。



講演する森下元喜氏

### 2. 「紀州てまり」の栽培技術研修会

令和元年10月23日、かき・もも研究所にて「紀州てまり」の栽培技術研修会を開催、農業士及びかつらぎ町認定農業者ら15名が参加しました。

当日、古田副主査研究員の案内で試験園の見学、試食を行い、栽培上の留意点について説明を聞いた。管内5圃場で採れた果実を食べ比べた参加者からは、「カラーチャート値4程度の果実のほうが美味しい」、「外観や着色が良い」、「ハウス栽培に取り組みたい」、「栽培上の欠点が少ないのが良い」などの意見が寄せられました。



古田副主査研究員の説明を聞く

### 3. 農業士、新規就農者との交流

令和2年1月22日、橋本市民会館ギャラリーにおいて経営事例研修会を開催。農業士、新規就農者、市町等の関係者ら36名が出席しました。

「再任用の5年間で振り返って」と題して、農業水産振興課小松副主査から地方農業士会活動等の講演に続いて、指導農業士の坂口佳弘氏（橋本市）、玉置恵子氏（九度山町）、辻重光氏（かつらぎ町）が、自身の経営概要、今後の経営方針等について発表しました。

坂口氏は、父の病気を機に退職、34歳で就農。当初は柿、小菊を栽培していましたが、獣害増加により山畑は山林に戻し、条件の良い園のみに縮小。花の施設栽培は10年間続けましたが3年前に撤退。現在では柿+野菜栽培に転換。露地では手間のかからない種類（キャベツ、タマネギなど15品目）を、施設ではメロンを栽培し、やっちゃん広場でお盆の供え物や贈答用として人気で、栽培技術は独学で上達するまでに3年間かかったと話されました。

玉置氏は、結婚、出産を機に退職し、就農。当時、柿・八朔・米の複合経営でしたが、現在では適地・適作、南東向きの地形、



意見交換会の様子

土壌条件を活かして柿専作経営へ移行。樹上で十分に着色させてから収穫する味にこだわって栽培。JA 選果場が終了してからの収穫も多いとのこと。5年前長男がUターン就農し、家族労力3人で管理園地を分担。当面は現状の規模で、将来、労力に見合った経営規模に縮小も考えたいと話されました。

辻氏は、24歳で就農。当初、柿・施設柿・洋梨・みかん・李などの複合経営でしたが、29歳の時、父が他界。父の遺志を継ぎ甘柿「新秋」のハウス栽培を開始し、H21年にプレミア和歌山（優良県産品推奨制度）を取得。平15年頃、柿加工施設を整備、「あんぽ柿」「柿ひとえ」など5品を商品化。今後は、柿への偏重から脱却するため、H30年からブドウ「シャインマスカット」を試作、技術習得を始めており、柿加工機器の更新も進めていきたいと話されました。

続いて、森口会長の進行で発表者3名との意見交換を実施。会場の出席者から「安定的に雇用を確保する方法は」「年中忙しい中でモチベーションを維持するには」等について質疑が交わされました。

今後も若手農業者との交流を盛んにし、本協議会が新規就農者への指導援助や農業振興に対する市町への提言等で地域活性化に一役を担えるように取り組んでいきたいと考えています。



新規就農者からの質疑応答

#### 4. 兵庫県方面への県外研修

令和2年2月4日、農産物直売所や低コストで小規模農家でも取り組みやすい水耕栽培装置の製造業者の栽培実証施設見学を通して、自己研鑽や会員相互の親睦を図るため、JA兵庫南の農産物直売所「にじいろふぁ～みん」（兵庫県加古郡稲美町）、兵神ファーム（兵庫県加古郡播磨町）を訪問、会員ら16名が出席しました。

にじいろふぁ～みんでは、藤田主任から直売所の概要、販売状況、出荷方法、他の直売所との物流等の説明を聞いた後、バックヤードや店内を見学しました。

当直売所は、H27年11月にオープン、今年で5年目。東播磨（3市2町）で作られた野菜、米、果物が並ぶ。店内には豆腐工房、惣菜工房があり、出来立ての加工品も購入できます。また、隣接して直営レストラン（バイキング形式）、調理研修棟（料理教室）、貸農園121区画が整備されていました。

夏にはスイートコーン、メロン（稲美町産いなみ野メロン）、秋にかけて直売課で生産したブルーベリー、ブドウ、今の時期はイチゴ、トマト、キャベツ、ブロッコリーなど様々な品目が販売されています。研修後、農業士会員らは併設のレストランで地場産野菜を使用した料理を堪能しました。

兵神ファーム（兵神機械工業株式会社）では、澤田主任、城本様、清瀬係長、中平課長の案内で当社の水耕栽培装置の栽培実証施設の説明を受けました。

装置の特長、低コスト化の工夫、新規就農者でも取り組みやすい装置の単純化、自動化（肥料、Phなど養液管理、夏場の養液冷却、遮光カーテン、サイド換気）、蛍光灯利用した育苗庫（健苗、発芽揃い）など随所に当社のアイデアが活かされ、チンゲンサイ、ベビーリーフ、ミニセロリなど栽培されていました。

また、プロジェクターで当装置の収益シュミレーションモデルの説明を聞き、導入後の栽培技術指導や装置のメンテナンスも含めて初心者でも安心して導入しやすいと説明されました。

本協議会では、この様な視察研修を通して会員間の交流を活発にし、連携を強め、先進事例からそれぞれの経営に活かすと共に本地域の活性化に繋げていければと考えています。



バックヤードで藤田氏から説明を聞く



澤田主任の説明を聞く農業士ら

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 有田地方農業士協議会の活動について

有田地方農業士協議会事務局

有田地方農業士協議会（森田耕司 会長）では、生産技術の向上や農業経営の発展、情報交換による会員相互の交流などを目的に、講演会や技術研修会を実施するとともに、新規就農者など地域の青年農業者の育成や女性農業者の研修などを支援しています。

### 1. 総会及び研修会の開催

4月18日、平成31年度有田地方農業士協議会総会を開催し、平成30年度事業経過報告と収支決算報告、平成31年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認されました。

総会後の研修会では、有田川町在住の株式会社 わかるとできる 代表取締役社長 裕弘一氏から、20年前に一人でパソコン教室「わかるとできる」を起業、国内最大規模まで成長させた実績をもとに、社長の考え方・行動が、従業員のやる気や取引企業からの信頼につながることに ついて具体的な事例で、ユーモアを交えてわかりやすい説明を受けました。

意見交換で同年代の農業士から「いまの仕事は何歳まで続けられると考えていますか。後継者の育成は？」とか、「現在のような考え方に変わったきっかけは何か」など、予定した時間を超過するほど、熱心に質疑応答が行われました。



(株)わかるとできる 裕弘一氏（中央）との意見交換

### 2. 技術研修会の開催

7月23日、有田川町の県果樹試験場において温州みかんの生産技術研修を開催しました。果樹試験場の研究員2名（中谷主査研究員、田嶋主査研究員）から、「植物生長調節剤ジベレリン（温州みかんの浮皮軽減）とターム（かんきつの摘果）の特徴と使用方法」、「果樹試験場育成カンキツ新品種「はるき」の特性」について、技術解説を受けました。

農業士からは、「ジベレリンとジャスモメート混用散布で果皮の着色が遅れたとあったが、何日ぐらい遅れるのか」や「はるきの樹勢は他の品種と比べてどの程度か」など、熱心な質疑応答が行われました。



「はるき」高接ぎ樹の見学

### 3. 有田地方農業士協議会・4Hクラブ合同現地研修会の開催

9月12日、令和元年度有田地方農業士協議会・有田地方4Hクラブ連絡協議会主催の合同研修会が開催され、各市町から農業士・4Hクラブ員、関係者併せて55名が出席しました。この研修会は、管内の農業生産や農産加工、また市町の取組など地域の優良事例を学ぶとともに、会員同士の交流を図ることを目的に、毎年管内の市町持ち回りで実施しています。昨年は台風の襲来で中止となりましたが、今年、有田川町金屋地区の連年多収を実現している温州みかん園と山椒やシイタケ、獅子ゆず（観賞用）などの複合経営事例、全国からも注目されている有田川町小水力発電の取組について研修を行いました。

### 4. 新規就農者（アグリビギナー）への支援

9月2日、有田振興局農業水産振興課が就農して間もない農業者に対し行う「アグリビギナー等技術経営研修」に有田地方農業士協議会から4名参加、意見交換会でのグループ討議の進行役として協力しました。

研修では、農業機械の安全使用について、特に刈払機の構造やメンテナンス、使用上の注意点を中心に実物を見ながら説明がありました。終了後、会議室にてグループに分かれ、意見交換会が行われました。自己紹介のあと、新規就農者より困っていることや今後の取り組みを発言してもらい、農業士より経験を踏まえた助言や今後期待すること等話を話してもらう形で進めました。

意見交換会では、参加した新規就農者からは、活発に意見交換が行われ、経験豊富な人のアドバイスがとても参考になったという意見がありました。



4～5人グループで意見交換

### 5. 女性農業者への支援

6月18日、「有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会」が開催されました。有田農業女子プロジェクトは、農業女子同士が知り合いの輪を広げ、農業についての知識や技術を身につけるきっかけをつくるのが目的で、有田地方農業士協議会女性部会は、先輩農家としてアドバイスをするため、毎回参加しています。今回は就農して間もない農業者対象の「アグリビギナー」研修会と合同で開催しました。

研修会では、「農業におけるドローン技術の利用」をテーマに、果樹試験場環境部熊本主査研究員から「ドローンを活用した病害虫の防除や試験場での試験結果や状況について」、また、ドローン操縦技能者の養成スクールを開講している株式会社未来図の藤戸氏から「ドローン技術」の説明を受けました。続いて、藤戸氏にはドローンを使った農薬散布のデモンストレーションを行っていただきました。出席者は、散布方法や、農薬の登録状況など熱心に質問をしていました。その後、グループに分かれ、全員でミニドローンの操作体験を行いました。

出席者からは、みかん栽培での実用化にはもう少しわかりそうだが、新しい技術を知ることが出来て良かったなどの意見が聞かれました。

当協議会では、これらの活動の他に、農業士・4Hクラブ・生活研究グループの3団体で「有田地方農業者団体連絡協議会研修会」、女性部会独自の研修会なども行っています。



ドローン技術の説明

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 日高地方農業士会の活動について

日高地方農業士会事務局

### 1. 花育活動を実施

5月15日、日高地方農業士会（山田裕司 会長）と日高地方花き連合会（池田晃 会長）は、共催で11回目となる花育活動を実施しました。

スターチスや宿根カスミソウ等の花束122束を、管内の小学校33校（支援学校含む）の5、6年生の各クラスに贈りました。また5校では、花束の贈呈式が行われ、松原小学校（美浜町）と切目小学校（印南町）では、贈呈式終了後にミニ花束づくり体験を実施しました。

（花育活動についての詳細は、別ページにも記載しています）



花束できた！（松原小学校）



贈呈式（切目小学校）

### 2. 県議会議員との意見交換会を開催

8月1日、日高振興局において県議会議員との意見交換会を開催しました。この会は、地域リーダーである農業士と管内選出の県議会議員が日高地方の農業振興について意見交換するもので、平成19年から開催しており今回で9回目となります。



意見交換会の状況



意見を述べる県議会議員



---

今回のテーマは「農地の維持と耕作放棄地対策」、「鳥獣害（サル）対策」、「担い手対策」で、産地の現状と農地の借り手への支援、サルによる被害対策と行動域調査の状況、農家子弟への支援策、農業高校との連携等について意見交換がなされました。

### 3. 女性部会が先進地研修会を開催

7月16日、女性部会（二葉美智子 部会長）は6次産業化の取り組みを学ぶため、先進地研修会を実施し、会員15名が参加しました。

全国優良経営体表彰で農林水産大臣賞を受賞した滋賀県高島市の（有）宝牧場代表取締役の田原哲也氏から、牛や豚の生産部門、ソクトクリームやパンの加工部門、焼き肉レストランと精肉販売の店舗部門を組み合わせた6次産業化の取組について話を伺いました。会員からは、「労働力の確保はどうしているのか」等の質問が出されていました。

また、バターづくりを体験し、会員相互の交流も深めました。



田原代表取締役から話を聞く部会員



できあがったバターを試食

### 4. 第33回地域農業を考える日高のつどいを開催

1月23日、日高地方の農業士会、生活研究グループ、4Hクラブで組織する地域農業を考える日高のつどい実行委員会（後藤明子 会長）は、日高町中央公民館において「熱意を変えるな！ 令和につなげる日高の農業」をテーマに上記大会を開催し、会員、関係者等138人が参加しました。この大会は、農業者自身がこれからの地域農業のあり方について考え、地域づくりの取り組みに資するため昭和62年から毎年開催されています。

講演1部では、農事組合法人古座川ゆず平井の里の倉岡有美常務理事から「柚子の香りに夢のせて」、第2部では梅ボーイズのリーダーである山本将志郎氏から「梅の世界を変える集団 梅ボーイズ」と題した講演がありました。講演1部、2部を通じ、取組に違いはあれど「熱意を持ち続け、行動を起こす」という事例に触れた参加者からは、「ご苦労とご努力が伝わってきた」や「若い視点とその行動力がすごい」との声が聞かれました。



倉岡氏の講演を熱心に聞く参加者



講演する山本氏

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 会員の交流と研鑽を深める活動の実施

西牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

### 1. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催

4月17日、西牟婁地方農業士会連絡協議会（木村則夫 会長）は、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、会員及び行政関係者等65名が出席のもと、総会並びに研修会を開催した。本年度は役員改選により、廣畑幸男氏が会長に就任した。会員は145名で新体制でのスタートとなった。

研修会では、3月末に定年で退任された指導農業士の下畑千秋氏が後輩への贈る言葉として、「私の農業の今までとこれから」と題し、これまで取り組んできた農業への思いについて話した。また、県果樹試験場栽培部 田嶋皓主査研究員から「西牟婁地方におけるカンキツ有望品種について」と題し、これまで県や農研機構で育成された有望品種の紹介と育成過程についての講演があった。

総会・研修会後に行われた意見交換会では、下畑氏及び田嶋氏の講演内容について活発な意見交換が行われた。



新役員挨拶



研修会（講師：下畑千秋氏）

### 2. 第27回SUN・燦紀南農業者の集いを開催

9月4日、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、「現在の農漁村を考える」をテーマに、西牟婁地方農業士会連絡協議会、4Hクラブ連絡協議会、生活研究グループ連絡協議会主催によるSUN・燦紀南農業者の集いが開催され、生産者や関係者約100名が出席した。この集いは、西牟婁地方の農業者が地域の課題や農業農村の今後について検討・交流することにより、地域農業の発展、地域の活性化につなげることを目的に年1回開催され、今年で27回目となった。

研修会では、和歌山大学 地域活性化総合センター 岸上光克教授を講師に招き、「現在の食料・農業・農漁村を考える」と題した講演が行われた。

岸上氏は、自身の関係してきた地域づくり活動事例等について、時折笑いも交えながら話された。同氏は若者を中心に「農」に対するイメージや要望は多様化しており、地域の方向性を考える際は、農漁業従事者以外の住民も一緒になって意見を出し合う地域づくりが必要だとの私見を述べられた。

その他、農業水産振興課職員から「農地中間管理事業について」及び「スマート農業技術導入に向けた取り組み」について話題提供を行った。



摘果講習会の風景

### 3. 西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会が梅の消費拡大活動を実施

西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（橋坂佐都美 部会長 13名）が、梅を都市の子供たちに知ってもらい、消費拡大に繋げようと大阪府立佐野支援学校中学部の生徒47名と教員20名（11月14日実施）、大阪府立東淀川支援学校高等部の生徒11名と教員3名（11月15日実施）を対象に、梅の座学と加工体験実習を行った。

座学では部会員が「梅の一年」について、パワーポイントを使って、梅の花や果実の成長する様子、栽培方法、梅干しが出来るまでの作業等を説明した後、梅の加工品や機能性について紹介した。また、加工実習では、梅ジュースの作り方を実演し、生徒が冷凍梅を使ったジュースづくりの体験を行い、その後3種類の梅ジュースの試飲を行った。

生徒からは、「梅ジュースが出来るのが楽しみ」、「梅の種類によって梅ジュースの味が違う!」、「梅は1日にどれくらい収穫できる?」、「梅干しはいつから作られているの?」等たくさんの意見や質問があった。さらに、家庭や学校の給食に使ってもらえるように、白干梅と当部会で作成した梅レシピも配付した。

当部会では、今後も都市の子供たちに梅の座学や加工体験を通じて、梅の魅力を伝えるとともに、保護者へも梅のPRを行いながら、梅の消費拡大活動を積極的に行っていく。



座学「梅の一年」  
(大阪府立佐野支援学校)



梅ジュースづくり体験  
(大阪府立東淀川支援学校)

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 東牟婁地方農業士会の活動について

東牟婁地方農業士会事務局

### 1. 総会及び研修会を開催

4月11日、東牟婁地方農業士会（杉浦仁 会長）は、休暇村南紀勝浦において、会員及び関係者等約22名出席のもと、総会並びに研修会を開催しました。

総会では、平成30年度事業経過と収支決算、平成31年度事業計画と収支予算、役員改選が議案どおり承認されました。また、本年、青年農業士から地域農業士となった松本安弘氏が紹介され、松本氏は農業にかける想いやこれからの経営方針を話しました。

研修会では、和歌山県農業共済組合南部支所普及推進課 植西和弘主幹から「収入保険制度」、みくまの農業協同組合融資課 石坪義孝課長から「農業関係融資」、同営農販売課 清水重良次長から「鳥獣害対策」、また、東牟婁振興局農業水産振興課 浅井普及指導員から「農業経営発展サポート事業」について情報提供が行われました。

意見交換会では、地域農業の振興や農業士会の今後の活動内容等について、活発に話し合いが行われました。



総会



研修会

### 2. 先進地視察研修を開催

8月6日、田辺市内（中三栖、秋津町、稻成町）のイチゴとナスの栽培圃場を視察しました。当日は農業士会2名、新規就農者3名を含む生産者6名の他、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課の計12名が参加しました。

最初は、田辺市中三栖でイチゴを栽培している山川義明氏の圃場を見学しました。山川氏からイチゴの高設栽培「とこはる」システムと底面給水育苗法への取り組みについての説明があり、参加者からはシステムの導入費用や底面給水による加湿の防止対策などについて質問がありました。

続いて、田辺市秋津町で干両ナスを栽培している畑平耕志氏の圃場を見学しました。畑平氏の圃場では、ひも誘引が行われており、東牟婁管内で一般的なネット誘引と異なるため、それぞれの誘引方法の利点と欠点について、参加者との間で意見交換が行われました。

最後に、田辺市稲成町で稲成ナスを栽培している榎本哲也氏の圃場を見学しました。稲成ナスは伝統野菜として古くから地域で栽培されてきたが、虫に弱いことや秀品率が低いことなどから栽培者が減っており、現在では、生産者は榎本氏を含めて3名とのことでした。参加者からは、稲成ナスの果実特徴や取引価格について質問がありました。

今回、参加した新規就農者からは、「栽培技術を導入したい」、「勉強になった」などの感想があり有意義な研修になりました。



イチゴの底面給水育苗圃場



稲成ナス栽培圃場

### 3. 和歌山大学食農総合研究所の東牟婁地域現地研究会に参加

11月25日、新宮市熊野川町の三津ノ地域活性化協議会協力のもと、和歌山大学食農総合研究所が熊野川町総合開発センターで現地研究会を開催しました。「農業・農村生活体験のビジネス化」をテーマに、同研究所特任助教の植田淳子氏、日高川町ゆめ倶楽部21前会長の原見知子氏が講演しました。研究会には東牟婁管内の農業士6名や新規就農者3名の他、関係者計59名が参加しました。

研究会では、植田氏から「グリーンツーリズムの展開と推進上の課題」と題して、植田氏が実際に携わった大分県安心院町でのグリーンツーリズムの取り組み事例を交えながら講演があり、原見氏からは、「中山間地域を活かす～人こそが地域をつくる～」と題して、体験型観光としての農業体験や農家民泊、移住者受け入れ支援の活動を行っている日高川町ゆめ倶楽部21の活動について講演がありました。

意見交換では、参加者から「農家民泊を準備しているが、広い地域でどのように連携してきたのか?」、「地域の活動について、どんな仕掛けから始めればよいのか?」等の質問が出され、原見氏からは「地域で話し合う場を持つことが大事。また、体験でも視察でも、何か取り組みを行った後は、反省会を行い地域に何が一番合うのかを考えてほしい。」との意見がありました。この他にも那智勝浦町太田地域での地域づくりの取り組み報告や鳥獣害対策の質問もあり、積極的な意見交換が行われました。



現地研究会



意見交換会

# 【設立40周年記念】 農業士活動を振り返って

## 出会いを大切に

平成 23～24 年度 会長

和歌山市 西村 芳規



### 1. はじめに（農業士活動当時を振り返って）

私は、昭和 53 年に青年農業士として認定されて以来、平成 25 年に解除となるまで、地域農業が少しでも活性化するよう農業士会活動に取り組んで参りました。この間、和歌山県農業士会連絡協議会副会長（H19, 20）、和歌山県農業士会連絡協議会副会長（H21, 22）、和歌山県農業士会連絡協議会会長（H23, 24）を務めさせていただきましたが、多くの方々との出会いがあり、私自身も勉強になったと思っています。

30 代の頃、農林水産省の事業で派米研修に参加し、規模の大きさや農家のものの考え方などアメリカの農業経営を間近に見てきました。そして、帰国してから学んだことを参考にしながら農業経営に取り組んできました。

私の経営は、規模拡大し鉄骨ハウスを建て、ホウレンソウ、コマツナ等軟弱野菜を周年生産し、スーパーマーケットと直接取引しているため年中忙しいのですが、長年、会長等役員を務めさせていただいたのも、家族の協力と理解、また、前向きで協力的な仲間のおかげだと感謝しています。

県の会長の時のことですが、県外出張が多く会議のあと講演会を聞く機会もありましたので、「この講師さんの話は参考になる」と思ったら、その場で講師さんに直談判して、後日、農業士会で県外研修に行かせてもらったり、和歌山に講演に来てもらったりもしました。農業士会の会員さんに少しでも有

### 現在の農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	80a
ホウレンソウ	350a
コマツナ	300a
シュンギク	100a
ミズナ	60a
チンゲンサイ	100a
○労働力	
家族	4人
常雇用	3人
臨時雇用	7人

意義な話を聞いてもらいたいとの思いから、積極的に他府県の人と接していたように思います。

県の会長は大変なこともありましたが、他府県の農家との出会いは私にとって刺激になり、良い経験をさせてもらいました。

### 2. 今の農業士への想い・提言など

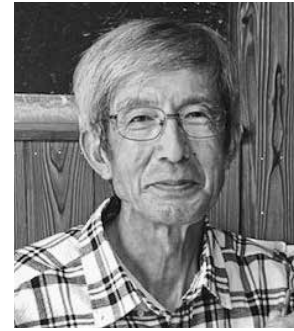
今は、私の若い頃と比べて、地域に同年代の（特に若い）農家が少なくなってきましたが、せっかく農業士会という団体に入っているのですから、技術的なことや経営のことなど何でも、会長はじめ周囲の会員さんに相談してもらえたらと思います。

そして、常にアンテナを張って向上心を持ちながら、リーダーとして地域を引っ張ってほしいと思います。

## 農業士は地域のリーダーに！

平成 25 ～ 26 年度 会長

和歌山市 吉本好澄



### 1. はじめに（農業士活動当時を振り返って）

私の家では、戦後、水田をやめてデラウェアの栽培を始め、少ししてから巨峰を導入しました。和歌山県内では、比較的早くからブドウ栽培を始めた農家です。

私は 42、3 歳の頃から地域農業士になり、その後、65 歳まで和歌山県農業士会に所属していました。その間、和歌山県農業士会連絡協議会副会長（H17～18）、和歌山県農業士会連絡協議会会長（H25～26）、和歌山県農業士会の会長、副会長などの役職も務めました。

役に就いている間は、出て行く機会が多く、妻に負担がかかったと思いますが、お互いに協力してやってきました。

農業士会では、研修会や研修旅行に参加し、様々な地域や、自分と違う品目を作っている農家の見学に出かけたりもしました。ブドウ以外の品目を見に行ったのも参考になりました。また、農業士をされている方々は、熱心であり、新しい技術を取り入れて試行されている方や大規模な経営をされている方もいて、刺激を受けました。

県内農業士さんとの情報交換は、失敗例も含めて地域の事例を知る機会となり、技術力の向上にもつながったと思います。

### 現在の農業経営の概況

○作付品目と面積	
デラウェア	50a
巨峰	30a
温州みかん	35a
晩柑類	15a
うめ	15a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	2人

### 2. 今の農業士への想い・提言など

さびれていく地域をみると、リーダーがいないように感じます。

農業士さんには、農業士となって終わりではなく、地域のリーダーになって欲しいと思います。農業士会で学んだことを地域に戻してどれだけやれるかが大事です。

昔は、各自がまじめに農業に取り組んでいれば、そこそこ稼げてやっていけましたが、今はそうではなくなってきました。自分の地域で仲間を増やして、地域が存続できる道を作っていくて下さい。



# 【設立40周年記念】 地域での特徴ある取組

REPORT

## 生産者と協働による花育活動

日高地方農業士会事務局

### 1. 花育活動に取り組んだ経緯

日高地方農業士会（以下農業士会）では、日高地方選出の県議会議員との意見交換会を開催しています。平成19年度に開催された第1回目の意見交換会では、農業士会から「日高地方は花の産地なのにスターチスがどんな花か知らない人が多い。子供の頃から日高地方の花に接することが大切ではないか」との意見が出されました。

これがきっかけとなり、日高地方の花き生産団体の組織である日高地方花き連合会（以下花き連）や市町教育委員会と実施に向けた協議を重ねました。そして花き連は花の提供を、農業士会は各学校への花束の配布を担当し、両者の共催により平成21年5月に初めての花育活動が実施されました。



生産者から提供された花

### 2. 取組概要

令和元年度は、5月15日に11回目となる花育活動を管内の小学校並びに支援学校全33校で実施し、5～6年生の各クラスに花束122束を贈るとともに、5校で贈呈式を行いました。

花束用の花は、スターチスはもちろん、宿根カスミソウ、カーネーション、ガーベラなど日高地方で栽培された花約3,000本が生産者から無償で提供され、花育前日にJA紀州の集出荷施設を借りて花束に加工しています。

贈呈式では、日高地方の花についてより効果的に知ってもらうため、児童の前で代表者に花束を手渡し、花き生産者が日高の花き産地や飾り方について講話するイベントで、花育意向調査時に小学校に実施を提案しています。学校のカリキュラムの関係や花の話をする生産者の人数の都合で、1回にできる贈呈式は数校に限られますが、これまで管内20校で贈呈式を



児童代表への花束の贈呈



行ってきました。学校によっては、毎年のように贈呈式を実施してくれる熱心な学校もあります。

当日は、花束とともに対象児童全員に日高の花についてまとめたリーフレットを、贈呈式実施校には、日高の花を紹介したクリアファイルを配布し、児童が知識や関心を高めてもらえるようにしています。また授業の参考になるようなデータをまとめた先生用参考資料も配布することで、通常の授業の中に日高の花を取り入れてもらえるよう工夫しています。



花育活動での配付資料

### 3. 新たな取り組み ～ ミニ花束づくり体験の実施 ～

平成30年には、花育活動も10回目の節目の年を迎え、より花に親しんでもらうには、どうすればいいか検討したところ、ミニ花束づくり体験に取り組むこととなりました。

限られた時間の中で完成させる必要があるため、事前に長さを調整した花材を用いるなど工夫しましたが、それでも1時限(45分)必要となります。学校側の希望があるか心配でしたが、理解を得ることができ、平成30年に3校、令和元年に2校で実施することができました。

スターチス等の花材とラッピングフィルム、保水材等を児童一人一人に配付し、花束づくりがスタートです。大人から見ると簡単そうですが、小学生は、よりかわいい花束を作ろうと悪戦苦闘しつつ一生懸命取り組んでくれます。できた花束には、自作のメッセージカードを添えて、家族に渡すこととしました。照れくさそうにしながらも、楽しんでくれたと思います。



ミニ花束づくり

### 4. これからも子供達に笑顔を！

後日、学校から児童一人一人が書いたお礼状が届きました。紙面には、所狭しと花のイラストが描かれていました。

花は、人を笑顔にします。特に子供の頃から花に触れることは、情操教育はもちろんのこと、ふるさとの花き農業の活性化にもつながります。少しでも、日高の花に興味を持ってもらえるよう、花き連や学校関係者と連携し、花育活動をより効果的なものに進化させながら、継続していきたいと思います。



# 県農林大学校学生です。

## ～農林大学校農学部1年生の自己紹介&近況報告(第2回)～

### 園芸学科

私は小学生の頃から家の庭で土をさわる事に興味を持ち野菜を育て、夏にはスイカ、冬は白菜など様々な野菜を育ててきました。小学5年生の時の担任の先生が農業をやっている、そのお手伝いから始まり中学時代は自分が住んでいる近所の農家のお年寄りと親しくなり、ボランティアで春には田植え、秋の稲刈りをしていました。高校は紀北農芸高校に進み、高校生の時にも学校に行く道中に会った農家のお年寄りと親しくなり、今でもお手伝いに行っています。高校生の時、先生から農林大学校は農業実習の時間が高校よりも多いと聞き、もっと農作業を極めたいと思いこの大学校に入学しました。

私の将来の夢は、この先増えていくであろう農家の高齢化に対して、農作業を請け負う会社をすることです。高額な農業機械の購入が難しい農家さんには、自社の機械を使って作業します。また、出荷調整や出荷作業も請け負います。農業に関する作業は、どんな小さな事でも請け負いたいです。私は、農作業を手伝ったときに「ありがとう」と言ってもらえることがなにより嬉しと感じます。

話は変わりますが、私は高校で皆勤賞をもらっています、農林大学校でも休まずに、学校生活を頑張りたいです。



津村 浩 諄



西岡 悠 大

私の出身は有田郡有田川町です。この学校に入学しようと思ったきっかけは、実家がミカン農家で小さい時から手伝いをしていたので農業に興味があり、親に相談したところこの学校を教えてもらい関心を持ち入学しました。

卒業後は、この学校で学んだことを活かし農業関係の仕事に就きながら、家の農業を継いで、親の役に立ちたいと思います。

農林大学校では、家で作っているミカンだけではなく様々な果樹栽培について学び、今後役に立つような知識を身につけたいと思います。

私の出身は海南市です。入学の動機は最初から農業に興味があったわけではなく、どちらかというあまり興味がありませんでした。しかし、特にやりたいこともなかった為、母親にどうしたらいいかと聞くと「農林大行ってみたら?」と言われ自分でもホームページなどで調べて興味を持ち、入学を決めました。

将来の夢は、具体的にはまだ決まっていませんが農業関係の会社に入りたいと思っています。

農林大では、農業関係の会社の情報を集めたり様々な資格を取得したいと思います。



橋本 和 勢



廣 畑 綱 木

私の出身は、田辺市です。私がこの学校に入ろうと考えた動機は、高校生の時、農学部のある学校で、比較的近いところへ進学したいと思っていました。それを高校の先生に話すと、この農林大学校を進められ、自分でも調べた上、入学を決めました。

将来の夢は、農業関連会社に就職して、健康的で安定した生活を送ることです。

この学校で、農業の技術を身に着け、体力をつけ、卒業する頃にここに来てよかったと思えるように2年間頑張りたいです。



私の出身は紀の川市です。この学校に入学することを考えたきっかけは、同じ農林大に在籍していた友人から勧められたことでした。家で祖父母が栽培している桃と柿を継ぐことを少なからず検討していたので、本格的に農業をするためのカリキュラムが整っていると思い受験することを決めました。入学当初は家に桃と柿があるので専攻を果樹にするつもりでしたが、以前から少し興味があった野菜を専攻しました。今はまったく知らない野菜栽培について、卒業するまでに技術と知識を可能な限り身につけ将来役立てられるようになればいいと思います。



福 原 資 裕



松 下 彪

私の出身地は有田川町です。農業に興味を持ったきっかけは、家で農作業をしている時に楽しさを感じたからです。高校は、農業の勉強をやりたくて農業高校に入学しました。高校では、果樹、野菜、花を勉強しました。農業を勉強している間に、果樹に最も興味を持って和歌山の果樹全般の事を勉強したいと思い農林大学校に入学しようと思いました。学校では、果樹コースを専攻し充実した生活を送っています。

学校では今まで経験した事が無い事に進んで取り組んでいきたいと思っています。

私は、紀の川市桃山町に住んでいて、桃山町には有名なブランドの桃「あらかわの桃」があります。私の祖父が「あらかわの桃」を作っていて、桃の季節には手伝いもしていました。将来、私も栽培したいと思い、その知識や技術を身につけたいと思いこの学校に入学しました。入学してみて果樹コース、野菜コース、花きコースで実習を経験して、野菜にも興味を持ち、現在は野菜コースで勉強しています。特に、トマト栽培に興味がありトマト栽培の技術を身につけたいと思っています。



.....



私の出身は大阪府岸和田市です。そして私の出身高校は、農業を専門とした学校で3つの専門学科があり、私はハイテク農芸科でした。ハイテク農芸科の中に農業クラブというものがああり、私は草花部を専攻していました。草花部では菊やハボタンや観葉植物などの栽培技術を学んでいました。だから多くの品目を栽培している和歌山県農林大学校で草花の知識や技術を身に着けたいと思います。また資格取得にも努めたいと思います。そして将来の夢は花に関する仕事に携わりたいと思います。これから自分にあった職業を探していきたいと思います。

# 農業士会活動レポート

REPORT

## 令和元年度 和歌山県農業士会連絡協議会 女性農業士部会活動 経営発展セミナー、車座座談会を開催

和歌山県農業士会連絡協議会事務局

令和2年1月20日、和歌山県自治会館で開催された「第2回経営発展セミナー」（主催：わかやま農業経営サポートセンター、共催：（一社）和歌山県植物防疫協会）に、和歌山県農業士会連絡協議会女性部会も共催として加わり、セミナーに参加しました。

第1部の講演では、65名の参加者があり、うち県農業士会連絡協議会女性農業士部会員も、県下各地から25名が出席しました。

第1部では、近畿農政局生産部生産技術環境課資材対策係長 空田健生氏から「GAPをめぐる情勢」として情報提供があった後、ブランドストーリー代表 大平恭子氏を講師に迎え、「地域が主役！人と地域を繋げる6次産業化と商品開発」と題して、講演が行われました。

大平講師からは、消費者に向けた「売り方、伝え方」、「商品の魅力的な訴え方」、SNSを使った消費者との繋がりなどについて講演があり、今まで携わった仕事の実例なども交えながら、6次産業化に取り組む考え方、目標設定の方法などについて紹介がありました。

第2部の車座座談会では、吉本女性部会長の開会挨拶の後、第1部で講師を務めて頂いた大平氏にも加わっていただき、県農業士会連絡協議会女性部会員で、情報交換を行いました。

情報交換では、「台風被害に遭った農作物をどのように販売したら良いか」、「後継者に経営を引き継ぐ際に、どのようなことを心がけているか」、「労働力をどのように確保しているか」など、幅広く情報交換が行われました。

今後も、会員相互の交流、情報交換を進めて、日頃の農業経営に活かしていただきたいと思います。



第1部：大平氏による講演



第2部：車座座談会



座談会参加者と大平講師（中央）

# 農業士認定事業について

REPORT

## 県農林水産業のリーダーを認定 ～ 令和元年度認定式を開催 ～

和歌山県農林水産部経営支援課

2月5日、和歌山市内で令和元年度の認定式を開催し、県農林水産業の中核的な担い手で、地域のリーダーとして活動している方々に対し、農業士、林業士、漁業士の認定証を交付しました。今回の認定により、県内の農業士は806名となりました。

式典で、知事は「和歌山県を上げて、皆さんと共に農林水産業を盛んにしていきたい。それぞれの立場で、引っ張って行って頂きたい」と述べて今後の活躍への期待を表明しました。これに対し、有田川町の指導農業士 小沢利光さんが認定者を代表して「地域の農林水産業、農山漁村の活性化に一層努力する」と決意を表明されました。



知事から認定証を交付

また、今年度で定年を迎えられる等の指導農業士12名の方々には感謝状が贈呈されました。今回、農業士の認定を受けられた皆様、感謝状を受け取られた皆様は次のとおりです（敬称略）。



長年にわたり活躍された指導農業士へ感謝状を贈呈

## 農業士認定者の皆様 57名

### 指導農業士認定者 12名

氏名	市町村名	氏名	市町村名
杉本 明彦	紀の川市	片山 綾子	由良町
吉村 勉	紀の川市	平林 孝郎	由良町
山本 武美	かつらぎ町	芦 裕 真弓	みなべ町
小沢 利光	有田川町	平岩 義浩	田辺市
川口 和男	有田川町	山添 踊香	田辺市
宮下 雅之	御坊市	太田 喜文	那智勝浦町

### 地域農業士認定者 29名

氏名	市町村名	氏名	市町村名
高平 昌英	紀の川市	木村 文俊	御坊市
宮崎 幸也	紀の川市	中家 祥博	印南町
得津 力	紀の川市	沖野 勝己	印南町
田口 実	紀の川市	畑谷 祥子	みなべ町
山下 武志	紀の川市	深山 正樹	みなべ町
東 昌 樹	岩出市	西川 祥之	みなべ町
尾上 文啓	橋本市	長岡 佳広	日高川町
石井 裕久	有田市	橋本 憲明	日高川町
太田 祥元	湯浅町	中本 美智代	田辺市
畑 拓 志	湯浅町	榎本 佳代	田辺市
栗山 平良	広川町	中平 真規子	田辺市
楠本 大	広川町	竹本 京子	田辺市
瀬川 和哉	御坊市	左向 益美	田辺市
山添 弘文	御坊市	濱野 孝人	田辺市
小森 健太	御坊市		

青年農業士認定者 16名

氏名	市町村名	氏名	市町村名
辻本 晃 啓	和歌山 市	古田 廣 志	御坊 市
尾野 裕 亮	和歌山 市	西口 泰 弘	御坊 市
山本 晃 嗣	和歌山 市	笹本 雅 也	御坊 市
長谷川 博	紀の川 市	河端 康 宏	御坊 市
南 陽 介	橋本 市	上田 明 広	日高 町
山崎 行 晃	湯浅 町	白井 雄 太	日高 町
山本 晃 司	広川 町	西 政 俊	日高 町
井口 拓 哉	有田川 町	野久保 光 祐	田辺 市

感謝状を受けられた皆様 12名（農業関係）

氏名	市町村名	氏名	市町村名
妙瀬田 宏	紀美野 町	森 一 洋	湯浅 町
山田 哲 也	紀の川 市	後安 栄 造	有田川 町
森本 俊 弘	紀の川 市	瀧谷 元 藏	有田川 町
嶋 良 一	橋本 市	佐藤 昌 利	御坊 市
玉置 恵 子	九度山 町	抜田 佐 代	すさみ 町
藤井 栄 一	九度山 町	大石 元 則	新宮 市



## (参考) 農業士について

昭和 51 年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士 (65 歳まで)」「地域農業士 (65 歳まで)」「青年農業士 (40 歳まで)」の3つの区分がある。

令和2年3月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	155 名 (うち女性	30 名)
地域農業士	523 名 (うち女性	50 名)
青年農業士	128 名 (うち女性	1 名)
合 計	806 名 (うち女性	81 名)



表紙の人

新宮市 指導農業士

**大石 元則**さん

大石さんは、畜産業（繁殖和牛）を主体にイチゴと水稲の複合経営を行っています。

平成 23 年9月の紀伊半島大水害後には、災害による自身の経営の立て直しと共に地域の復興にも力を注いできました。

最近では、イチゴの規模拡大を行っています。

※訂正とお詫び

第 13 号の 33 頁 平成 19 年度～平成 22 年度の会長名は、正しくは今西敏文様でした。訂正してお詫びします。

## 和歌山の農業士 第 14 号

発行日：令和 2 年 3 月

編 集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印 刷：有限会社 阪口印刷所



# 和歌山の 農業士

和歌山県  
和歌山県農業士会連絡協議会

